



## 参議院選挙の投票前に、 まず『日本国憲法』を読んでください！

参議院選挙の最中、セブン・イレブンの店頭で赤い水玉模様の表紙の本『日本国憲法』が並んでいる。大手書店でも今週ベストセラー・ノンフィクション部門の2位か3位になっている。懐かしい表紙だ。31年前、1982年に小学館から発行された。37刷92万部を出したという異色のベストセラーだった。前文と103条を大きな活字で組み、漢字すべてにルビを振ってある。見開き写真29葉を織り込んでいるなど体裁は初版と同じ。表紙の水玉模様の直径が0.5ミリ大きくなったのと、帯のコピーが「あなたは読んだことがありますか？」が、「読んでから考えませんか？」に変わった。しかも、税抜きで500円。31年前より200円安い。「改憲気運が高まっている今だからこそ、より多くの人に読んでほしい」と編集者の思いが伝わる。私は、この本を30年前に求めた。2刷だったが、ハードカバーでちょっと重い。今度の第2版はペーパーバックに変わっている。求めやすいようにという思いだろうか。

ところで、私がいつも持ち歩いているのは、『あたらしい憲法のはなし』の復刻版（日本平和委員会発行、200円）だ。1947年8月に施行された（同年5月3日）ばかりの日本国憲法を新制中学校1年生の社会科学習のための副読本として文部省が編纂した。丁度この年に最初にこれを学んだ一人として共に生きている証でもある。

また、体裁はA6版（文庫版）にして、文字通り「小さな学問の書」として『復刊・あたらしい憲法のはなし』を童話社が出している（本体286円）。同社からは、全く同じ体裁で、『日本国憲法』を出している。教育基本法（旧）と英訳日本国憲法も付している（本体286円）。類書の中で一番コンパクトで持ちやすい。

文庫版の『日本国憲法』では、ちくま学芸文庫が英文対訳付きで本体567円。講談社学術文庫が本体588円。本の泉社からは憲法会議・編で用語解説付き、大日本帝国憲法も掲載。本体476円。ハルキ文庫が今年4月新刊発行。伊藤真さんが監修し、「まえがき」と「あとがき」を書かれ、今日の意義が示されている。用語解説付き。英訳版+大日本帝国憲法を掲載し、税込み580円。

ユニークなのが、一橋出版の『教科書・日本国憲法』。A5版で用語解説と各章ごとの資料付き。本体450円。

ここでは、『日本国憲法』の全文を掲載、かつコンパクトな本に限って紹介した。改憲の動きが迫っているとき、憲法を知ってもらうための工夫を凝らした本もたくさん出されている。『日本国憲法なのだ!』（赤塚不二雄著、草土文化社）、『やさしいことばで日本国憲法』（池田香代子、マガジンハウス）、『二つの憲法』（井上ひさし、こまつ座+岩波ブックレット）等々、まだまだたくさん。最近「憲法本コーナー」を設けている本屋さんもある。

改憲が争点となっている参議院選挙。まず「日本国憲法」を読んでから、この国の今日と明日をみつめて投票してほしい。

(代田5丁目・高岡 岑郷)

※ この文章は、九条の会東京連絡会・高岡さんが書かれたもので、法学館憲法研究所のホームページ「今週の一言」欄 (<http://www.jicl.jp/hitokoto/index.html>) に7月15日から掲載されています。

### 朝日新聞 7月7日付の一面広告

朝日新聞 7月7日付の一面広告には、憲法に関する書籍の紹介が掲載されています。主な見出しとして「憲法がヤバイ」、作家・井上ひさし氏の「憲法」の本、「日本国憲法」関連書籍特集、そして「憲法の本」が紹介されています。また、読者の声や「読んでから考えよう。」といったメッセージも含まれています。

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、  
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう～

# 「九条の会・東大」緊急講演会「いま改憲論議を問い直す」に参加して

参院選公示前日の7月3日に東大・駒場キャンパスにて、九条の会事務局長の小森陽一さん（東大大学院教授）と同事務局の渡辺治さん（一橋大学名誉教授）の講演会が開かれました。

小森さん：『96条の会』発足と『9条の会』運動』

第二次安倍政権の改憲の策動について講演しました。はじめに、6月14日に上智大学で開かれた「96条の会」発足シンポジウムについて、「1000名を超える参加者があり、第9会場まで満席となった。樋口陽一代表が基調講演で96条の改定について『裏口入学に当たるやり方で仮に改憲が成功しても、一国の基本法としての正当性を持つことは出来ない』と批判した。さらに、96条先行改定論への批判が相次いだ」と紹介がありました。

小森さんは、この「96条先行改憲」がもたらす弊害について「立憲主義を壊す、時の政府の思いつきで憲法が変わり憲法の安定性を阻害する、選挙で代表を決める直接民主性と権力を代表が行使する間接民主制の相互関係を破壊する」と指摘しました。

次に自民党の「憲法改正草案」における憲法9条について「現行の9条から戦力及び交戦権の否認を削除し、国防軍の保持、国際（国連ではなく米国を指す）的に協調して行われる軍事活動への参加、軍事法廷の設置などが明記され、日本を平和国家から戦争する国へ転換させる内容」と指摘しました。さらに、「最高法規の一つである憲法97条（基本的人権は侵すことのできない永久の権利を謳う）は削除され、無条件の基本的人権が保障されなくなっている」と断じました。最後に「戦争する国家は、どの時代でも、どの国でも『個人』の基本的人権と人間の尊厳を踏みにじるものだ」と結びました。

渡辺さん：「なぜ、いま9条改憲か？ なぜ、9条を変えてはならないか？」

前半で、安倍首相が憲法9条の改憲にこだわるのは、冷戦後のグローバル経済を維持し牽引したいとする米国からの自衛隊の派兵を求める圧力に抗うことをせず、追随している姿勢に基づくという説明がありました。

後半の「なぜ、9条を変えてはならないか」の講演で「戦後、日本が侵略をしなかったばかりでなく、戦争に巻き込まれなかったのは九条の力であった。日米安保の傘に守られたという考え方（安倍首相が答弁に用いるフレーズである）は誤りである。米国と二国間軍事同盟を結んだ諸国はアメリカの要請で、ベトナム戦争に加担せざるをえなかった。日本が加わらなかったのは、九条があったことによる。さらに、日本の戦後の成長と繁栄を支えたのも九条の力であった」と述べました。さらに、「北朝鮮の脅威、尖閣は九条を変えないと解決できないのか」について、「海上保安庁の警備艇は最上級の能力を有しており、必要な警備ができる能力を持っている。主権を外国から侵害されることはない。九条を変えなくても主権は守れる。むしろ九条を変えれば戦争に巻き込まれる危険性が増す。九条に基づくアジアの非核化、軍縮こそ日本が率先して進めるべき道だ」と指摘しました。

最後に、「改憲を阻むために何が必要か」についてふれ、「安倍政権の改憲、軍事大国の姿勢はアジアの諸国や米国からすら警戒と不安をもたれている。改憲を阻むため国民連合が必要だ。これを担えるのは、全国に7500の組織を持つ草の根の運動体である『九条の会』になるだろう。ここには女性が60%も参加しており、幅広い国民が参加している。高齢者が多い分、以前なかった戦いが期待できる。若い人には若い人なりの戦いを、我々は我々の戦いを、それぞれ目指すことが必要である」と結びました。（代田2丁目・坂本 功）



## 集会等の紹介

7月29日（月） 午後6時から

緊急！学習会

“壊憲派の思うがままにさせてなるものか！” 講師：川村 俊夫さん（九条の会事務局）

会場：東京・池袋：豊島区民センター4F 資料代：500円

主催：九条の会東京連絡会 連絡先：TEL：03-3518-4866

8月11日（日） 午後1時～ 代田・九条の会 終戦記念日によせて

「すいとんを食べながら戦争を語る会」

落語：寝床家 道楽 さん

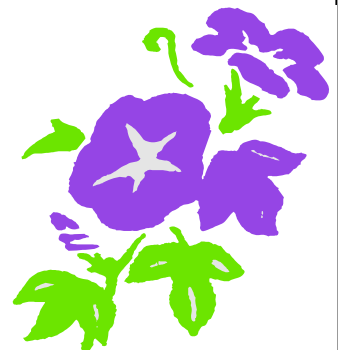
会場：代沢地区会館1F

11月4日（月・休日） 午後1時半～4時半ころ

代田・九条の会 創立記念の集会

講演と文化行事 高橋 哲哉さん（東京大学教授）

11月16日（土） 九条の会 「全国交流・討論集会」



お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。  
また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。